

## 文化・芸術

### 「鬚光像」

1928年、油彩、カンバス  
45・7センチ×37・8センチ（個人蔵）

長谷川利行（1891～1940年）

企画展「鬚光と同時代の仲間たち」展から紹介します。21歳の若々しい鬚光が、鮮度の高い色彩と躍動感に満ちた筆致で描かれています。

この作品が生まれた経緯については、互いの画友であった井上長三郎が次のように記しています。ある日、鬚光と井上は、上野の帰り道、利行に大層ごちそうになり、そして、「その夜私たちは鬚光の所に泊り、翌朝長谷川は鬚光の古キヤン（古いキャンバス）に彼のパレットを使って30分くらいで『鬚光像』を描いた」と。

また、利行は同年、新宿のカフェ・オリエントで鬚光とともにビールを飲む印象をモチーフに「鬚光に」という詩も発表しました。

鬚光は一時期、利行の影響色濃い作品を発表した時代もありました。それほどに利行の存在は鬚光にとって特別なものでしたが、利行にとってもまた鬚光は、描かないではいられない存在感を放っていたといえるでしょう。鬚光の若い才能と出会い、一気に仕上げた本作は、いまなお両者の息づかいを伝え、輝き続けています。

（小此木）

### 名画の扉

大川美術館企画展から

